

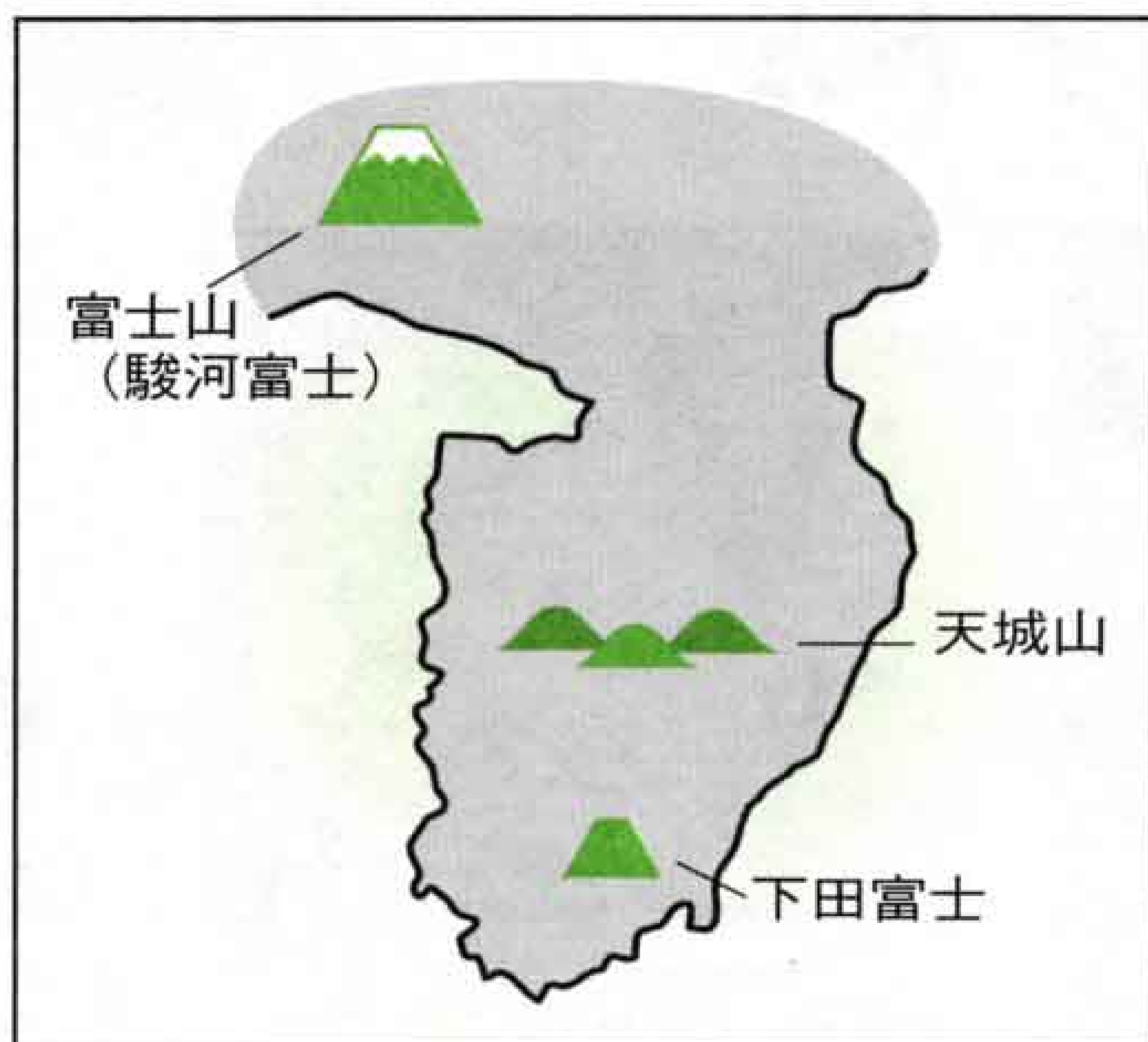
富士の民話 あれこれ

伊豆急下田駅の北西に、「下田富士」と呼ばれる高さ百八十メートルほどの岩山があります。この下田富士は、富士山と姉妹であったという言い伝えがあります。今回は、この姉妹の富士にまつわる話を紹介します。

富士山がだんだん 高くなった話

駿河富士と下田富士は姉妹でした。下田富士が姉で、駿河富士は妹です。とても仲よしで、小さいときからお互いにかばい合っていました。姉さんの下田富士は、いつでも妹の面倒をよく見て、雨が降ればからかさ雲をかけてやり、風が吹けば長い雲の手を伸ばして覆ってやりました。やがて、年がたつにつれて、駿河富士はだんだんと美しくなりました。長いすそをふもといっぱいに広げ、朝日夕日に輝くほおは紅色に染まって、そのあでやかさには、だれもかいませんでした。それに引きかえ姉の下田富士は、ごつごつして美人ではありませんでした。妹に比べて自分が美人でないことに気づいた下田富士は、娘心にそれがたまらない悲しみになって、だんだん妹と顔を合わせなくなりました。そして、とうとう伊豆と駿河の間に大きなびょうぶを立てて、妹のぞいても見えないようにしてしまいました。そのびょうぶが天城山です。妹は悲しそうに「お姉様！どうかお顔を見せてください」と叫びながら、つま先で立って背伸びをしました。でも、下田富士は妹の声を聞きながら、ますます体を縮めて顔を見せません。

そのため、下田富士はますます背が低くなり、逆に駿河富士はどんどん背が高くなり、とうとう日本一の高さの山になったということです。



平成六年より連載してきた「富士の民話あれこれ」は、今回で終了します。長い間で愛読ありがとうございました。次回五月五日号からは、「富士の民俗芸能」を紹介します。

こちら編集室

毎年この時期は、出会いと別れがあります。私も今回の異動で他課へ行くことになりました。短い間でしたが、ありがとうございました。(編集長)

編集室での6年間。皆さんから学び、経験したことを、今後の自分の財産として、頑張ります。(親バカ)

編集室へ来て2年。何もできずに無念の異動…。新しい課で自分を向上させる努力をしたい。

(美人3姉妹のママ)

よく食べ、よく飲み、よく笑い、そしてよい仲間と出会えた1年間。編集室での楽しい思い出を胸に、新天地で頑張りたい。(歌姫)

人口 240,800人 (前月比+148)
男 119,764人 (+32)
女 121,036人 (+116)
世帯 81,264世帯 (+197) 3月1日現在
編集・発行 富士市総務部広報広聴課
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100
☎51-0123 (代) ☎51-1456

